



A お客様とは密に相談しているが、想定以上に省CO2、省エネというニーズが高く、モーターを使う車の需要が高まったと考えている。電磁鋼板の能力増強投資を計画し実行しているが、一部供給が間に合わない期間が出来てしまう。総合的な商品力・品質等を踏まえると、最もハイエンドな製品において当社は世界トップだと自負している。

**Q 下期の原料価格・鋼材価格の前提について、どのように織り込んでいるのかを確認したい。**

A 鉄鉱石は足元、市況価格が上昇しており、下期はこの足元の水準を想定している。原料炭については、下期にかけて需要が回復してくるので若干上昇するとみている。従って、当社への影響という観点では、上期から下期にかけて主原料コストは上昇するとみている。鋼材価格については、海外の製品市況は4月から5月が底値でそこから回復している。当社出荷ベースの価格では6月積みがボトムとなりここから上昇してくる。下期の製品価格は足元の市況横ばいで見ている。主原料コストは上昇、鋼材価格は横ばいで、主原料スプレッドは下期にかけてマイナス方向になるという見方をしている。

**Q 自動車メーカーとの価格交渉について、コロナ下で需要が減退している状況下では、紐付価格の是正は難しいのか？**

A コロナ影響があっても、我々が従来から申し上げてきた「商品価値とお客様への貢献に見合った価格」「設備・研究開発投資を継続できる適正マージンの確保」を実現するというスタンスは一切変わらない。厳しい状況ではあるがきちんと交渉していく。

**Q 6月に名古屋の高炉改修を発表したが、2月に減損をした設備に対して改修を行うことを決定した理由を教えてください。**

A 名古屋製鉄所の第3高炉改修は6月に発表させていただいた。500億円弱かけて改修していく。当社は生産設備構造対策を検討する中で、収益力・競争力がある一貫製鉄所を構築することが非常に重要と考えている。高付加価値商品を一貫で製造する体制・実力という点で、名古屋は優位な製鉄所である。減損時の将来キャッシュフローの想定には、今回決定した高炉改修を含め、現状設備の維持更新は織り込んだうえでプラスの将来キャッシュフローとなっており、減損損失の計上は今後の投資を否定するものではない。減損時のキャッシュフロー想定には実現の確実性が担保されないために織り込んでいなかったコスト改善努力や価格改善努力等を今後実行していくことによって、更に収益・キャッシュフローの上積みを図り、名古屋製鉄所を高級鋼中心の中核製鉄所にしていきたい。

**Q 電磁鋼板で700億円の投資を決定しているが、今の事業の数量や利益規模に対してどれくらいの貢献が見込めるのか、更なる投資の内容を含めて教えてください。**

A 電磁鋼板の設備投資に関して、数量や利益の増分について具体的には申し上げられないが、お客様とも話し合った上で投資を決定しており、十分な利益水準となると考えている。電

磁鋼板は、かつては高収益を上げていたが、韓国・中国でも製造し始めた結果、価格が下落し足元は収益的には厳しい状況にある。それを打開するためにも 700 億円の投資を決定した。更なる投資も検討しているので、成案化され次第発表させていただく。追加投資もあわせ、電磁鋼板の盤石な生産体制を構築し、電磁鋼板をトップレベルの利益水準にしていきたい。

**Q 上期から下期にかけての国内鋼材消費の動きと、御社の生産出荷の動きの考え方について教えてほしい。**

A 日本全体では鋼材消費で見ると上期から下期で+160 万 t となり、うち製造業向けが+170 万 t と見ている。一方、当社の出荷量は+150 万 t と見ており、これは製造業中心の内需回復と輸出の出荷量増によるもの。上期の出荷減に関してはお客様の在庫調整の影響も大きいと見ているが、下期における在庫調整の戻りがどの程度かを見通すことが難しい状況。

**Q シームレスパイプについては、上期にかなり落ち込んでいるが、詳しく状況を教えてほしい。**

A シームレスパイプは、もともと長期契約比率は高いものの、足元の油価の下落を受けて一部キャンセルが出てきている。出荷量についても、対前年同期で見ると上期は▼3 割程度落ちている。ただスーパーハイエンド品は▼1 割程度と落ち方が少なく、上期においての利益の落ち代は全体の数量減から想定される金額ほど大きくはない。

**Q 国内での今後の数量回復局面において、こういった点を見てバンキングした高炉の再稼働を決めていくのか。**

A 当社は最適生産体制の追求に加え、品種構成の高度化により、適正な固定費規模の下で限界利益を最大化していくことを基本戦略としている。収益性の低い注文が回復したとしても、単純に限界利益があるから高炉のバンキングを解除するということには必ずしもならない。生産調整においてはバンキングが最もコストデメリットが少ないため、量が戻りつつある局面では、まず高炉の出銑比や休風時間を元に戻していくことになる。そしてその上で、バンキングを解除するかどうかは、限界利益の高い製品をどれだけ受注できるかといった点を踏まえて判断していくこととなる。

**Q 今回の大規模な構造改革は、国内の生産体制のスリム化と海外での事業拡大を同時進行させていくものだと考えている。足元の国内スリム化が最も重要であることは承知しているが、その先を見た時での海外での数量変化、海外での収益改善の取り組みについて教えてほしい。**

A 構造改革の考え方についてはご指摘の通り。海外では、それぞれの会社が事業計画を持ちそれを推進している。インド、北米等については在庫評価差など一過性要因を除けば相応

の利益を出していくことは出来る状況にある。インドの AM/NS India では、粗鋼生産規模を現状の 700 万 t から近いうちに 860 万 t にする計画であるし、更には 1,200~1,500 万 t 規模にしていく考えの下で、鉱山の手当等も実行している。北米の AM/NS Calvert は、自動車向けだけではなくエネルギー向けもあるため足元は収益が低迷しているが、操業自体は問題なく、これから品種構成の高度化に向け取り組んでいく。このように個別プロジェクト毎に成長戦略を検討・実施している。インドネシア等、通貨安や経済の状況を受けて苦勞している事業会社もあるが、個別に具体的な対策をパートナーと議論している。

**Q 本日の計画上では、下期の生産を戻していく中で、バンキング中の高炉の再火入れを織り込んでいないということか？**

**A** 今回の見通しにおいては織り込んでいないが、日々需要動向は変化しているので、最適な生産体制については今後柔軟に対応していきたい。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。